



# SALVATIONIST

# とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二1章14節)

二〇二五年七月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



盛夏号

広報版

2025

July-August

No.2891

2025年 救世軍標語

と きの こ え SALVATIONIST

### 「信仰の遺産の上に築く」

盛夏号 広報版

2025 July - August  
NO.2891

「あなたにゆだねられている良いものを、  
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって  
守りなさい。」

テモテへの手紙二 1章14節

もくじ

- メッセージ  
行く先がわからない時にも  
—神の愛と正しさ—  
少佐 本村 大輔 ……3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第39回  
ジョン・ウェスレーの聖潔  
—心うちに燃えて—  
少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告  
『変革の宣言者』の学年 士官候補生歓迎集会 ……5
- 女性部ラリー  
西日本連隊  
東京東海道連隊 ……6
- 災害対策室レポート  
災害対策室講習会 ……7
- 各地のニュース !!  
西日本連隊、前橋小隊 ……7  
大森小隊、渋谷小隊、月島小隊 ……8
- YP (青少年部)・ファミリーニュース  
ティーンズキャンプ2025 ……9  
東京東海道連隊 ……10  
関東東北連隊 ……11
- 各地のニュース !!  
名古屋小隊 ……10
- 社会鍋による支援  
呉保育所、呉小隊、札幌小隊、緊急社会鍋 ……11
- 各地のニュース !!  
仙台小隊
- 〈連載〉各地の小隊から  
第13回 仙台小隊 ……12
- 〈連載・第33回〉  
神の呼びかけ～神の民となるために～  
(13) 家族への呼びかけ ……13
- 各地のニュース !!  
遠軽小隊、YGC ……13
- 救世軍見解表明  
社会道徳に対する救世軍の立場  
第17回「自殺防止」(2) ……14
- 救世軍公報 ……15
- 各地のニュース !!  
人事・教育部 ……15
- 第9回社会鍋俳句コンテスト受賞作品、選評 ……16

リンドン・バッキンガム大将及び  
ブロンウィン・バッキンガム中将 指揮

## 全国大会

2025年 11月19日～25日

テーマ「新しい地平線へ」

(イザヤ書43章19節)

- 11月19日(水) 大将夫妻来日
- 11月21日(金) 午前10時 全国士官会①  
午後2時 全国士官会②  
会場 山室軍平記念ホール
- 11月22日(土) 午後2時  
バンドレイジング・チャリティ・コンサート (一般公開)  
会場 中央区日本橋公会堂
- 11月23日(日・祝)  
午前10時 大会聖別会 (一般公開)  
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後12時30分 大会昼食会 (申込制)  
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後3時 賛美集会 (救世軍限定公開)  
賛美ゲスト・長沢崇史牧師、メッセージ・大将  
会場 山室軍平記念ホール  
午後5時 コースとの夕食会 (申込制)  
会場 山室軍平記念ホール
- 11月25日(火) 離日

各集会が恵みに満たされるよう祈り、ご参加ください!



@SArmyJP



SArmy\_JP



救世軍  
The Salvation Army

きりとり

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。  
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

表紙の写真：西日本連隊女性部ラリー。福山のぼら公園で(記事6ページ)

メッセージ

## 行く先がわからない時にも

## —神の愛と正しさ—

少佐 本村 大輔

近頃、スマホを片手に不安そうな表情の外国からの旅行者を見かけることがよくあります。私が日頃よく使っている、電光掲示板とスマホを見比べながら、自

分が乗る電車を探している方に出会うので、助けが必ずやあります。無事に目的地へ向かう行き先への期待で晴れやかです。

を悩む人生の歩みについては、簡単には答えは出せないものです。

私も目の前の課題に「どうしよう? どうしたらいいのか?」とつい悩んでしまうことがあります。あれこれと考えてみます。自分の中で堂々巡りになることもあります。何が最も良い方法だろうか? 最善とは思えなくても何がより望ましい道だろうか? そのような問いに、「こうしなさい」「これを選びなさい」と神様がわかりやすく教えてくださればよいのにも思いますが、そのような啓示を経験したことは私にはありません。

旅行のように、ある程度はつきりと行きたい場所や目的地があれば、助言も明確ですが、私はどこへ行けばいいのだろう? と目的地が定まらない、また選択

「朝にはどうか、聞かせてください。あなたの慈しみについて。あなたにわたしは依り頼みます。行くべき道を教えてください。あなたに、わたし

の魂は憧れているのです。」(詩編143編8節)

神様が聖書の言葉を通して語られることは、必ずしも問題に対する明確な答えや具体的な解決策ではないでしょう。ですから時にはもどかしい思いをしたり、神様の存在を感じることもできません。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(コリントの信徒への手紙一 13章4〜7節)

神様は何かを無理強いされる方ではありません。気がつくのとそつと背中を押してくださっていたように、私たちの生活の中で働かれる神様がおられます。私たちが神様の心はふれ合うことができず、神様は隠れておられます。慈しみ深く、愛に満ちた神様。しかし、その愛は時に厳しい愛で、試練を与えることもあるので

愛に満ちた神様はまた、義なる神様でもあります。そして神様の義とは、かけ離れたところではなく、私たちの近くにあるものであり、神様の義をどのように捉えていくかによって私たちの生き方は変わっていきます。神様の義、正しさとは、私たち人間に対しても、私たちが神様のご計画のすべてです。神様は義そのものだからです。

愛に満ちた神様はまた、義なる神様でもあります。そして神様の義とは、かけ離れたところではなく、私たちの近くにあるものであり、神様の義をどのように捉えていくかによって私たちの生き方は変わっていきます。神様の義、正しさとは、私たち人間に対しても、私たちが神様のご計画のすべてです。神様は義そのものだからです。

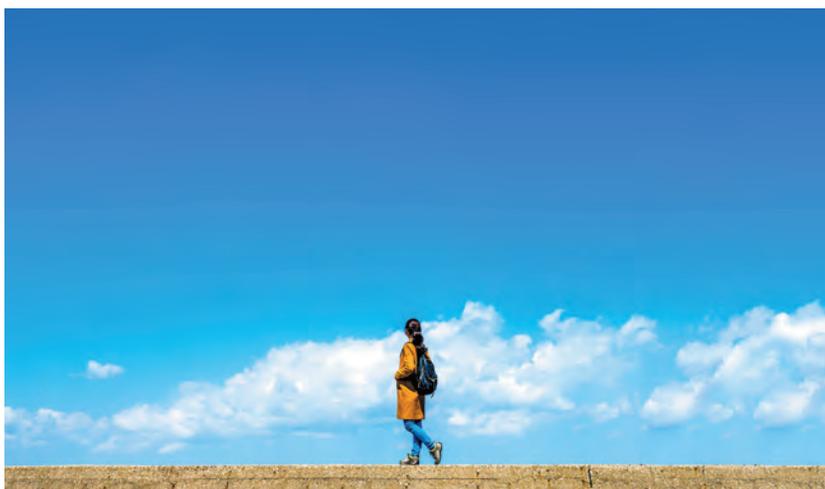
との対話を通して神様の偉大さと自分の未熟さに気づきます。そして愛されること、赦されることに気づくのです。愛され、赦されているから未熟な自分に耐えて、精一杯生きることでできるのです。「生きていく人間、これこそ神の栄光」と、古代のキリスト教の司祭エイレナイオスは語りました。未熟ながらも弱いながらも精一杯生きていく。私がどういうふうになるからではなく、今このように神様に生かされている。この私の人生に神様はご自分を描き出してくださる。そこに神様の栄光が現れてくるのです。

神様とのふれ合い、祈りを通して、私たちが選んでいく道を探り求めながらこれからも歩んでいきましよう。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。」(マタイによる福音書5章4節)

神様の義とはいったい何なのかを見つめていくことによって、人が本当の人になつていく人生を求めていきたいのです。

(西日本連隊長)



## 連載 聖潔の流れに立つ 第三十九回

### ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前) 個人としての熱烈なキリスト信仰を重んじることが何よりも大切である。聖潔は全く個人的な体験に根ざすものであり、団体が保証するものではない。聖潔は聖霊が人間一人ひとりにくださる個人的な賜物である。

タイタニック号の沈没で生命を失ったジャーナリストW・T・ステッドは、「団体の諸相の原点」としてウイリアム・ブースが何を考えていたかを彼の『ブース大將伝』の中で記している。それによれば、信仰者の絆は組織に先立つと述べる。山室軍平、山室武甫も救世軍の起源について同様に述べている。

メソジストのアズベリ氏も原点を大切なこととして強調している。現在の日本メソジスト系教会の中にも、米国アズベリ大学で教育を受けた者が幾人かいるし、世界の救世軍人の中にも幾人もいる。マザー・テレサも宗教は組織や団体ではなく、愛に燃える靈魂の、他者に対する絆である、と言っている。

ジョン・ウエスレーやウイリアム・ブースはグループを組織化することに非常に長けていたが、それにもまして最大の特徴は、靈性を大切に聖潔による絆を強調したことである。メソジスト及び救世軍の長年にわたる存続の源泉はここにある。このグループは国際的福祉を大切にしている団体として、後年ノーベル平和賞にノミネートされたことを覚えておこう。

聖潔は自分の努力で得たと自画自賛してはならない。私たちは自らの行為を決して誇ってはならない。神の恵みである聖潔も神からいただいたのだと確信する姿勢こそ、人として正しい態度である。神の賜物を自分が内側に最初からもっていたと自己礼賛をすることは、真の生命を一滴すらもっていないと知らねばならない。

ウエスレーの信仰生活と思想は極めて体験的な様相をもつ。神よりいただいた愛だけがキリスト者生活の動機となり、整えられていくというのである。彼はキリスト者の完全は「愛における完全」であると主張している。「キリストが歩まれたように、愛をもつて歩む」という実行的・具体的なものであった。キリストがもつておられた種々の美德を私たちもつようになること、そして私たちは絶えず神と共に歩み、魂の愛の眼は神を凝視し、いかなるところにあつても、「見えざる神」に眼を向ける。そして私たちの眼が純一であるが故にその全身は光に満たされている。楽器の調子が狂つていけばつまらない演奏しかできないように、眼が純一でなければ、聖潔の実は結び得ない。体験のない聖潔は空虚であるし、それは不完全な宗教性である。

言葉と行為が神の愛に基づいている場合、違反に陥つても、それは正確には罪ではない。しかし、一切のことは神の義には耐え得ず、贖いの血を必要とすることは当然である。贖いの日のために、聖霊の証印を受けた人たちさえも、神の霊を悲しませることがあるからである(エフェソ4・30参照)。アウグスティヌスが言ったように「我々の靈魂は神の内に憩うまでは平安がない」。罪ある者が、聖霊の証印を受けて神の赦しと贖いの血に身を委ねる時、神は私たちを糾弾することがない、と私たちも経験する。

#### D. 聖書による保証

ウエスレーは聖書以外の書物を聖書と比較できるとは思っていない。ウエスレーはそういう意味で「一書

の人」である。すべての真理を聖書の教えに基準を置き「キリスト者の完全」を説いていて、彼の確信によれば、彼の完全論は聖書に基づいている。聖書の教えには、人間性の絶え間ない浄化と改善が含まれている。聖書を「神の言葉」として「聖書の靈感と權威」について強調している。聖書から逸脱することは「キリスト者の完全」の教理から外れていると彼は言っている。聖書から生じないような教理は説かれてはならない。西洋文化と思想の興亡に聖書ほど影響を与えたものはない。スイス、イギリス、北米等、宗教改革を経た国では、聖書に基本を置いていた。

#### E. 靈的健康の喜びを伴う贖罪愛

私たちの欠陥を贖うためには、キリストの血が必要である。キリストの血がすべての罪から私たちを潔めるのである。キリストの血に全幅の信頼を置き、見えざる神の實在を啓示する聖霊に私たちのすべてを委ねることが肝要である。

私たちの靈的健康は自分で培ったものではない。私たちはキリストの御手の業の一部として組み込まれているので、健康な者としての扱いを受けるのである。「主よ、あなたの義によって私を助けてください」と言う時、キリストは私自身の義の源となつてくださるのである。「この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがた……」(ローマ1・6)とあるように、もともと私たちは異邦人であった。神の美に取り囲まれてはいるが、醜い私たちは神の御手の中で美しい者として扱っていただいた。その実体は醜い以外の何者でもなかった。私たちは神の意志と恵みによってのみ真の生命に至ることができるのである。偽の石炭(クリンカー)であるのに、人は私たちの虚像を見て、よく燃えていると錯覚する。クリンカーと一緒にあって、美しく燃えているように見えるが、実は私たちはクリンカー(石)であつて、何のエネルギーも出してはいない。美は神にしかないのだ。

(続く)

# 集会報告

## 『変革の宣言者』の学年 士官候補生歓迎集会

4月11日(金)午後7時 山室軍平記念ホール

集会に先立ち、山室軍平記念ホール前で野戦がおこなわれました。ミャンマー地震の被災地支援のため社会鍋も立てられ、協力が呼びかけられました。また、行軍もあり、神保町の町にブラスバンドの音色が響きました。

定刻、ジャパン・スタッフ・バンド (JSB) の演奏する「For Christ Alone」に合わせ、『変革の宣言者』の学年のラーランザウイ候補生が入場し、会衆は拍手で歓迎しました。昨年の5月から軍国全体でおこなわれた「525キャンペーン」を経て、新しい候補生が与えられたことに、会場には喜びがあふれました。

集会は YGC (山室軍平カレッジ) 校長ダニエル・テンブルマン - トウエルズ少佐の司会で進められ、『救世軍歌集』322番「主に味方し」を会衆一同で歌い開会。士官志願者部長勝窠実香少佐が開会祈祷を献げました。司令官スティーブン・モーリス大佐は挨拶と候補生の紹介をし、2年間の学びと訓練の開始にあたり、候補生に学年旗を授与しました。軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が祈祷を献げました。

ラーランザウイ候補生は、日本で生活し働くことになった経緯と、士官として奉仕する使命について、詩編37編5、6節の御言葉から導かれたと証しました。

賛美アンサンブルの伴奏で、2025年のテーマソング「All That I Am」(「わたしの未来もわたしのすべてを献げます」と、ワーシップソングの「詩篇 100」を歌いました。続いて、士官永年勤続章授与の時がもたれ、35年章が山谷真少佐に、30年章が西村保大佐補に司令官から授与され、長年の奉仕に感謝が表されました。



あかし証言をした候補生

『救世軍歌集』282番「<sup>かいぬし</sup>牧主わが主よ」を歌いながら献金をし、コリントの信徒への手紙二5章14～21節の朗読に続いて、ジャパン・スタッフ・ソングスターズが「いずこにも命のまま」を合唱しました。



司令官と通訳の山谷少佐

司令官は、「新たなスタート」と題してメッセージをしました。「郵便局員が手紙を預かるだけで配らなかったら職務怠慢である。主イエスは弟子たちに、全世界に出て行って弟子をつくるようにと命じられた。わたしたちは福音を託され、天の御国を代表する大使として立てられている。キリストの使者としての務めをあなたはどのように果たしているだろうか。新しい候補生を迎えたこの新年度、わたしたちも霊的に新たなスタートをした

い。」  
続く祈りの時には、恵の座に進み出る人もありました。書記長官西村保大佐補が閉会の祈りをし、その後、JSBの後奏で恵みの集いを締めくくりました。(会衆88人、恵の座5人)



賛美アンサンブル



ジャパン・スタッフ・ソングスターズ

### ミュージックキャンプ2025

テーマ：喜びをもって主にささげよう!

8月10日(日)～12日(火)

会場：杉並小隊・総合センター、山室軍平カレッジ (YGC)

詳細は音楽部からのお知らせをご覧ください

### 西日本地区

### ミュージックキャンプ

7月21日(月・祝)

会場：大阪セントラルホール

詳細は音楽部からのお知らせをご覧ください

### 全国祈祷会

士官志願者・献身者のために祈ろう

オンライン (Zoom) 及び対面



10月9日(木)  
13時半

会場：杉並小隊・総合センター



## 女性部ラリー

### 西日本連隊

救世軍  
女性の働き

5月25日(日)、福山小隊でおこなわれました。(参加者37人、オンライン16人) ゲストに、軍国女性部書記西村和江大佐補を迎え、コロナ禍後久しぶりに、西日本連隊の中間地点の福山に、京阪神地区から、また九州からも集まることができました。



ふたかた 二方に一同大いに励まされました。日曜日開催ということで、20代、小学生まで、各世代が参加できました。

午後からの講演【～もしものことを考えよう～】は、導入の後、さっそく「もしバナゲーム」を4、5人のグループに分かれて体験しました。お茶を飲み、お菓子を食べながら皆さん楽しんで参加。それぞれが大切に思っていることを分かち合い、終活のことを考えるのに参考となる良い体験の時でした。終了後、時間のある方々は、ばら公園の散策に行き、「ばらのまち福山」のたくさんの美しいバラの匂いに包まれながら、ラリーの恵みを満喫、感謝する時をもちました。

(写真：表紙)



午前中の聖別会には、オンラインで福岡小隊と京都からも数人が個別に参加しました。呉・広島・福山バンドの前奏から始まり、司会は福山小隊の西江喜久美家庭団書記。田辺真理子青少年部曹長が証言をしました。メッセージは西村和江大佐補が、「命のある限り」と題して、詩編146編より「捕囚帰還後の人々が希望を失わず賛美したように、私たちも歌いつつ、時代や環境の変化の中でも、揺り動くことのない神様に頼って、御国の約束に向かって忍耐強く走り抜きましょう」と語りました。

礼拝後、食事と交わりの時には、おいしいお弁当を食べながら自己紹介。最高齢者は福山小隊の大部津留子さん(94歳)、続いて天満小隊の池田せつ子さん(93歳)。お

### 東京東海道連隊

5月28日(水)、「新しいわたしに、であう」(イザヤ43:19)のテーマで杉並小隊でおこなわれました。今年は、自分らしい服装での参加が呼びかけられ、会場はリラックスした雰囲気となりました。午前10時からウェルカムティータイムで、華やかな色のお茶をいただきながら、久しぶりの再会を喜び、会話を楽しみました。連隊女性部書記鈴木真理子大尉のリードで歓迎と賛美のひと時をもち、11時からゲストの豊田かな先生による「講演①」がありました。かな先生は、ご自分のこれまでの歩みや、日課として心がけていること、趣味のバレーボールクラブでの経験などを通し、「新しいわたし」ということについて、具体的に語ってくださいました。毎日が同じことの繰り返しのように思える霊的倦怠感から回復して、「日々新しい」神様の恵みを見だし、神様が造られた自分自身の姿へとリニューアルされていくこと、そのために自分の「願い」を知ることが大切であると語られました。

おいしいお弁当の昼食をいただいた後、午後の「講演②」では夫の豊田信行先生(ニューライフキリスト教会牧師)も登壇され、「自分らしさ」という賜物について、若くして亡くなられた父上の姿を通し、「神の作品」としてのかけがえのない一人ひとりの人生があることを語ってくださいました。

休憩をはさみ、続く礼拝では、信行先生がマタイ16:24より、「だれでもわたしについて来たいと思うなら」と



豊田かな先生



かな先生と夫の豊田信行先生

招かれるイエス様の御言葉からメッセージをされました。

2回の講演とメッセージを通し、自分の「願い」を大切にすることは、神様が造ってくださった自分らしさを認め、神の作品であるそれぞれの人生を喜んで生きていくことであり、命令や強制によってではなく、自分の願いとしてキリストに従って生きることにつながっている。神様が見せてくださる驚きに目を開き、自分はきょうはこれがしたい、という願いに心を向けて、神様を喜び従う小さな決断を重ねて、主を信頼して歩み続けましょう、と語られました。

講演の合間には、それぞれの「願い」を発見するきっかけとなるよう、「小さい頃に何に夢中になっていたか」「自分の原風景は」「これから何をしたいか」の問いについて、自由に話し合う時ももたれました。

ティータイムや昼食時には、連隊内から参加した多くの友と良い交流の時をもちました。今年も新生寮、婦人寮の手芸品、供給部からの出張販売、また、ホサナホーム(キリスト教主義の作業所)の出店があり、買い物も楽しみました。天候も支えられ、祝福された一日となりました。

(参加者93人)





## 災害対策室レポート

### ●第5回災害対策室講習会

4月22日(火)、杉並小隊・総合センター別館(アネックス)にて、今回は東京東海道連隊の小隊士官を対象におこなわれました。開会礼拝では軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐がヨハネ11:17~25より、「クリスチャンは、神は災害についてもすでにご存じであることを心に留め、なすべきすべての準備を成し遂げ、神に信頼をおきたい。やがて来る災害に恐れ続けるのではなく、今日、恵みをもって備え満たして下さる主に依り頼みましょう」とメッセージしました。

セッション1は社会福祉部長石川一由紀少佐から「日本における災害救援活動の変遷」。1896年の三陸津波への対応に始まり日本の救世軍がなしてきた災害救援活動を振り返り、国際的な災害救援に関する標準「スフィアハンドブック」への準拠、万国本営との関わりの中で現在の災害対策室の姿があること、小隊のある地域での救援活動を考え、救援活動を救世軍のものとしてこれからも受け止めたいと語りました。セッション2は堀浩明 災害対策室長補佐による「災害救援活動の学び」。日本では多くの人が災害や社会情勢への危機感をもっている今、救世軍の「社会事業」はどのようなものであるかを、様々なスライドを用いて講演しました。

昼食をはさんでセッション3では司令官スティーブン・モーリス大佐の講演「アメリカの救世軍の救援活動」。アメリカでのさまざまな災害時の救世軍の対応、人材の配置などについて語られました。セッション4では「災害に対する備えの取り組み」が堀室長補佐よりなされました。洪水、液状化、津波、高潮など各種の自然災害に対して、ハザードマップをもとに、東京東海道連隊内の各小隊の想定されるリスクを確認しました。南海トラフ大地震や首都直下地震などを念頭におき、小隊の特性に応じて、無関心にならず、今後のための備えをしていくことの重要性が語られました。

また、各拠点に配置されている『救世軍災害救援活動マニュアル(第一版、2013年発行)』を活用していくことも確認しました。司令官からの総評があり、祈りをもって閉会しました。(参加者29人、うちオンライン6人)



## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

おこなわれ、集われた皆さんと共に賛美し、平安のうちに礼拝を献げることができました。55人の関係者の方々が各地から集いました。礼拝の中でお二人の方の納骨式がありました。続いて、召天者名簿が読み上げられ、先に天に召されたお一人おひとりを偲びつつ、ご家族の慰めと天国への希望がありますよう、心を合わせて祈りました。連隊長本村大輔少佐がメッセージをしました。



## 西日本連隊

### ●京阪神地区 召天者合同記念会

4月12日(土)瓜破霊園において、晴天に恵まれ桜がまだ残る中で

## 前橋小隊

### ●イースター召天者合同記念会

4月20日(日)、恒例の小隊関係者の召天記念聖別会を守りました。小隊士官田口哲也少佐の司会で進められ、召天者名簿を田嶋保書記が朗読し、前橋との関わりの深いゲストの張田和子中将は、イザヤ46:1~4より「老いる日まで背負う」と題してメッセージをしました。午後の愛餐会は堀安子日曜学校教師が進行し、お弁当をいただきながら、和やかな交流の時をもちました。



〈軍国青少年部主催〉  
**オンライン ユース プレイヤー ミーティング**  
 12~35歳対象 月1回開催  
 詳細は公式LINEアカウントにて。各拠点に届いているチラシをご覧ください

# NEWS!! NEWS!!

## 各地のニュース!!

### 大森小隊

#### ●野戦

5月11日(日)午後、ミルパ(大森銀座商店街)で野戦をおこないました。通



常は月に2回、野戦をおこない、福音を伝えています。

この日は出陣の伝道事業部長石川和男少佐、節子少佐が聖別会に引き続き奉仕し、ギターを用いて賛美をしました。中込枝美子書記の語る福音に通行中の方々も耳を傾け、『ときのこえ』を配っている者に話しかけるなど、関心を示されました。(11人)



### 渋谷小隊

#### ●イースターフェスティバル

4月20日(日)、イースターの午後、<sup>ニューホープ</sup>NewHope コミュニティセンターと合同でイースターフェスティバルをおこないました。多くの親子が来場し、イースターエッグのペイントやエッグハント、輪投げ、リズム、綿菓子、英語で暗唱聖句など、6つのコーナーを楽しみました。(子ども100人、大人100人、奉仕者NewHope11人、渋谷17人)



ニティセンターと合同でイースターフェスティバルをおこないました。多くの親子が来場し、イースターエッグのペイントやエッグハント、輪投げ、リズム、綿菓子、英語で暗唱聖句など、6つのコーナーを楽しみました。(子ども100人、大人100人、奉仕者NewHope11人、渋谷17人)

#### ●女性部 代官山散策

5月25日(日)の午後、勝寛隆少佐のガイドで代官山を散策し、カフェでおいしいスイーツとお茶を楽しみました。気持ちの良い気候の中、リラックスした楽しい交わりの時となりました。(13人)



### 月島小隊

#### ●イースターコンサート

4月20日(日)午後2時から、イースターコンサートを開催しました。昨年に続き、小谷野みぎわさん(ソプラノ)、今村純子さん(クラリネット)、加賀都喜乃さん



(ピアノ)による演奏と証言がなされました。京橋小隊の戦友、近隣の方々、ご近所の託児所の先生方と子どもたち、小隊を会場におこなわれている子育てサロン(託児所主催)を利用したこ

とのある方々が来てくださり、多くの方々と共にイースターを祝うことができ、感謝でした。ミャンマー地震被災地支援の社会鍋も出し、ご協力をいただきました。(大人51人、子ども14人)

#### ●下士官任命

5月25日(日)、連隊リーダー出陣の聖別会席上、下士官任命があり、加藤光次郎楽隊員が大人部会計に任命され、辞令書が連隊長中島美和少佐から授与されました。加藤会計は、2年前の下士官セミナーで与えられたビジョンと、実際に会計の任を受けるまでの御言葉による導きを証しし、戦友一同大きなお恵みを受けました。



## YP (青少年部)・ファミリーニュース

### ティーンズキャンプ2025

4月1日(火)～3日(木)、会場：奥多摩バイブルシャレー  
 テーマ：「トレジャーハンター！～キミの宝を探そう～」(マタイ6:21)

これまでの「中高生キャンプ」を今年から名称変更して開催されました。

今年、講師に古波津真琴師(チャーチ・オブ・ゴッド教団 川崎キリスト教会牧師)をお招きし、集会①～③、ケーススタディを導いていただきました。期間中、参加した青年たちは、皆で礼拝やディボーションをし、共に祈る時をもち、ゲームや食事等を通して交流を深めました。

**1日目、ウェルカムナイト**では、西村光輝兵士、西村優基兵士(杉並)がゲームを導き、心ほぐれる時となりました。今回の賛美チームは、参加者の有志が分担を決めて加わり、熱い賛美が献げられました。

**集会①**では、奥山麻夜さんと加藤直子少佐(名古屋)がゲームを導き、グループ対抗で盛り上がり、お互いの絆を深めました。古波津師は「あなたの宝のある所には、心もあるからである」(マタイ6:21 口語訳)の御言葉から、あなたの関心の向かっているところに、あなたの心は動いているということ。イエス様にとっての宝、イエス様が大切にしているものとは？ そこにイエス様の心がある。それは「あなた」。あなた「たち」ではない。あなたは何に心を向けますか？ と問いかけられました。

**2日目、朝**は「ともに聴く聖書」アプリを用いて、全員で聖書の朗読に耳を傾け、小グループに分かれて、分かち合い、祈り合う時をもちました。

**ケーススタディ**では、賜物について学びました。古波津師は、①賜物は立場や場面によって変わる事、②何ができてできなくても、一人ではなく共にいることが素晴らしいこと、を語られました。参加者は「SHAPE」(賜物発見のためのワーク)に取り組み、グループで分かち合いました。自身で「できない」と感じていることも、他者から見たらできていて、もっと自信をもっていいんだと気づく参加者もありました。午後の宝探しゲームでは、チームで知恵を出し合い、チームワークを発揮して謎解きに挑みました。



**集会②**は、古波津師は「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」(ペテロ

ー4:10)の御言葉から語られました。私たちは他者と比べて何も「ない」と思いがちだが、聖書は「ある」と言っている。そして、一番の賜物は何かというと「イエス様」。イエス様は、「あなた」を用いたいと思ってくださっている。あなたの中心にイエス様はいますか？ と問いかけられました。

**3日目、朝**は「ともに聴く聖書」アプリを用いて御言葉を聴き、前日と同じグループに分かれて、分かち合い、祈り合う時をもちました。

**集会③派遣礼拝**は、参加者一人ひとりがひと言ずつ感想や証言をしました。それを受けて古波津師は、ただ楽しかったということではなく、参加者が、キャンプに参加する前の思いをふりかえった上で、それを覆す気づきや、それを覆う祝福に気づけていることが素晴らしい、とコメントしてくださいました。

メッセージは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(マタイ6:33)の御言葉から語られました。「イエス様との関係は一方通行ではない。イエス様がまず私たちを愛してくださった、求めてくださった。ありがとうございますと応えて、私たちがイエス様を愛する、礼拝する。十字架のメッセージは知れば知るほど、今までわかってなかったということに気づいていく。だから、『わかった』ではなく『ますます知りたい！』とイエス様を求めてほしい。」

メッセージや仲間との交わりを通して、参加者は自身の信仰や生き方と向き合う時を過ごしました。招きに応じて、参加者は信仰を表明し、イエス様に仕えたいという思いを表しました。(参加者30人)



# YP (青少年部)・ファミリーニュース

## 東京東海道連隊

### ●青年デー

5月4日(日)～6日(火)、YMCA 東山荘で、ゲストに青少年部長朝澤義人大尉と朝澤まりこ大尉を迎えて、「～ Firm Foundation ～イエス・キリストにある土台 (ペトロの手紙一5:10)」のテーマのもと、イエス様を土台として生きるということについて学びました。

1日目、夕方、各小隊から集まり、夜の集会1で、賛美とチーム対抗ゲームで緊張がほぐれた後、ラーランザウイ候補生が、揺さぶられる経験を通して、イエス様という土台の上に人生を建て上げる決心をしたことを証しし、連隊青少年部書記樋口潔大尉が、詩編94:22から「あなたは不安になる時、何に頼るか? 頼りにしていたものが頼りにならないことがある。砂のように流されるものではなく、岩のような土台となるイエス様に頼ろう」と語りました。

2日目、朝のディボーションは、「ともに聴く聖書」アプリで御言葉を聞き、年代別のグループに分かれ、分かち合いと祈る時をもちました。午前は、連隊長中島美和少佐がバイブル・スタディを導き、年代別のグループに分かれ、聖書を読み、学んだ後、全体で分かち合う時をもち、今回のテーマソングである「もう一度」を賛美しました。午後は、逃走中ゲームをしました。数人の青年たちがハンターになり、参加者は広い敷地を思い切り走ったり、隠れたりして、楽しみました。夜の集会2では、賛美とチーム対抗ゲームをして、朝澤義人大尉がルカ8:22～25から、「どんな嵐に遭って心が揺らいでも、向こう岸へ行こうと言われたイエス様の約束は揺るがない。御言葉を信じて祝福にあずかる者になろう」と語りました。集会後、ゲームの景品をいただきました。

3日目、朝のディボーションから始まり、集会3では、参加者全員が、青年デーでの気づきや学び、示されたこと



を証しし、朝澤まりこ大尉がルカ5:17～20から「中風のひとと友人たちを受け入れたイエス様は、私たちが何度、揺るがされ、失敗しても、味方でいてくださる。私たちは、揺るがない土台に一人で立つのではなく、イエス様が共にいてくださるから、安心して失敗できる。イエス様の温かい眼差しの中で生きてほしい」と語り、祈りの時をもちました。

今回、青年たちが賛美リード、集会企画、しおりやパワーポイント作成を担当し、各集会が賛美と喜びに満たされ、メッセージを通して、参加者がイエス様を信じる、御言葉を読む、などの決心に導かれました。進級・進学して新たな環境で一カ月過ごした参加者一人ひとりにとって、様々な揺り動かされるようなことを経験する中で、神様の前に静まる良い機会となりました。(参加者29人)



## NEWS!! 各地のニュース!!

### 名古屋小隊

#### ●召天者合同記念会



4月20日(日)に春の召天者合同記念会をおこないました。聖別会と墓前礼拝で、岡田望さんにアルプホルンでアメイジンググレイスを演奏していただき、召天者を偲ぶ、良い時となりました。



〈ご案内〉

Instagram  
公式アカウント



◇各種集会の案内など

@sarmy\_jp

「救世軍 The Salvation Army」

◇御言葉の発信

@goodnews\_sa\_jpn

フォローしてどうぞご覧ください

## 関東東北連隊

### ●ユース・スプリング・デイ・キャンプ

5月6日(火・祝)、高崎小隊を会場に開催されました。今回は、コヘレトの言葉12章1節から「創造主に心を留める」ということをテーマに、連隊青少年部書記 眞鍋嗣道中尉が御言葉から語りました。神様を知り、日々の生活の中で、神様を覚えていくこと、神様と共に生きることの大切さを考える時となりました。日々、神様を忘れてしまうことがある中でも、そんな私たちを神様は導いてくださっていて、励まし合う友も与えられていることを改めて感謝する時でした。

また、集会の中で、佐野小隊の高田翔琉さんと眞鍋実喜さんのジュニアソルジャー入隊式がおこなわれました。二人の決心を集まった皆で喜び、これからの歩みのために、また、二人に続く、イエス様に従いた



いという子どもが与えられるよう祈る時をもちました。集会後は、雨の中でしたが高崎小隊の方々が準備されたバーベキューをいただきました。バーベキューやゲームなど、大人も子どもも同じ作業をしていく中で、楽しく交わりの時をもつことができましたことを感謝します。

(参加者28人)



## 社会鍋による支援 呉保育所、呉小隊

### ●事業所「クッキー」様への訪問

2月28日(金)、就労継続支援B型事業所「クッキー」様の働きを覚え、呉小隊社会鍋資金より掃除機2台を贈呈しました。当日は呉保育所光組(年長)園児17人と先生2人及び小隊士官2人でお訪ねし、賛美やダンスを披露するなど、楽しく交流の時をもちました。

呉小隊の社会鍋募金は、毎年、呉保育所の年長組の子どもたちと職員による奉仕があり、支援活動を体験することで資金の用いられ方を学ぶ機会となっています。



## 札幌小隊 ●社会鍋慰問

4月16日(水)、青十字サマリア会に電気ポットとコードレス掃除機をお届けしました。

青十字サマリア会は依存症(アルコール、薬物、ギャンブルなど)の方の回復に向けてのプログラムをしており、AAのミーティングもおこなっています。近くに就労継続支援B型の施設「ブルークロス」もあり、週日は作業として木工やジャムづくりをしています。



## 緊急社会鍋

### ●ミャンマー地震被災地支援

4月24日(木)、東京・渋谷の道玄坂で、3月末に発生したミャンマー地震の被災地支援活動のための緊急社会鍋をおこないました。



NEWS!!  
NEWS!!

## 各地のニュース!!

しぶりの訪問となりました。震災から14年が経ちましたが、応対いただいた所長と職員の方は、クリスマスの慰問をよく覚えてくださっていました。

その後、かつての仮設住宅の支援活動に関わりをもつ

## 仙台小隊

## ●福祉作業所への訪問

3月21日(金)、大船渡市の福祉作業所「かたつむり」を訪問しました。コロナ禍でしばらく伺えず、久しぶりの訪問となりました。震災から14年が経ちましたが、応対いただいた所長と職員の方は、クリスマスの慰問をよく覚えてくださっていました。

た平山さんとお会いし、市街地の復興の様子をご案内いただきました。2月末から発生した大きな山火事は、市街地には影響がなかったのがまだ幸いだったとのことでした。被災直後であり、今後、行政の支援がどのようになされていくか見守っているとのことでした。



連載

各地の小隊から  
第13回 仙台小隊

小隊士官 松末泰志大尉

仙台小隊は関東東北連隊に属し、本州にある救世軍の小隊・施設の中では最北に所在しています。資料によれば、1906(明治39)年、中根峰吉大尉が初代仙台小隊長(小隊士官)として任命され、5月23日に青葉区広瀬通りの借家を小隊として、百数十人が集って開戦式が催されました。翌年の1907(明治40)年4月には、来日した創立者ウイリアム・ブース大將が仙台を訪問しました。大將一行が仙台駅に到着した時には、当時の早川市長と松永第二師団長をはじめとする要人の出迎えと、少なくとも約2万5千人の群衆が集まったとあります。以後は目覚ましい発展を遂げ、1926(大正15)年からは、仙台第一小隊、第二小隊(1937年まで)が設置されるに至りました。しかし、先の大戦中に、政府の統制下にある日本基督教団に加入を余儀なくされ、仙台小隊は日本基督教団愛泉教会となりました。終戦後間もなく、日本救世軍が再興されましたが、仙台までは手が及ばず、愛泉教会は日本基督教団に留まり、現在の仙台宮城野教会に至っています。

1954(昭和29)年4月、仙台小隊は青葉区二日町にて、ようやく再開戦を果たし、1975年12月に泉区南光台の住宅街に現在の会館を献堂しました。そこで1978年の宮城沖地震、2011年の東日本大震災と大きな震災を経験しました。特に東日本大震災の発生時には、各地からの支援チームの協力で、支援物資を近隣に配布し、そ

の後の救援活動の拠点となりました。震災後に任命された小隊士官は本営災害対策室東北担当を兼任し、東日本大震災の復興支援活動のみならず、相次ぐ自然災害被災地の救援活動にあたりました。

小隊会館は震災の影響と老朽化により建て替えられ、現在の会館が2020年1月に献堂されました。この会館の建築に際しては、万国本営をはじめ海外の救世軍からの災害基金の支援を受け、将来の災害対応に特化した、備蓄品が揃った倉庫と災害支援員を迎える個室も備えられています。その一方では、外部の人が入りやすく、解放感あるガラス張りの建築がなされ、名称も「仙台小隊シャロームチャペル」として、親しまれる教会への願いが込められています。

過去の新型コロナウイルスによる自粛の影響が今も続いています。戦友とその家族友人によるフォークバンドを通してのカフェチャージの実施、町内のイベントへの参加などを見据えています。現在の会館の献堂以来、遣わされた小隊士官は地域活動に取り組み、現在も最寄りの小学校での安全巡視員と、授業の学習サポートのボランティアが引き継がれています。また南光台市民センターとは、地域のコミュニティ活動(おやじの会)への参加、児童教育やクリスマス行事の会場提供などで関係性を築いています。仙台小隊は来年開戦120周年を迎えます。今後もこれらの働きを通じて、地域と小隊との関係が深まり、小隊が更に前進することを心から願うものです。

〈お詫びと訂正〉2025年陽春号(2885号)11ページ仙台小隊の記事中、お名前表記に間違いがありました。お詫びして訂正いたします。(誤)高菜美香さん→(正)高奈美香さん



## 〈連載・第33回〉

## 神の呼びかけ ～神の民となるために～

## (13) 家族への呼びかけ

(承前) わたしたちは確信します。家族は信仰の継承において中心的な役割をもつべきです。一方、今、家族は各地で機能不全となり、都市化された世界では崩壊し、人格や意味を失い、孤独や疎外感が蔓延しています。キリストを主と認める家庭においてこそ、また神の言葉により訓練された家族においてこそ、霊的な豊かさや確かな環境が与えられる、とわたしたちは信じるものです。

「家族というものは内的には個人に、外的には社会に直面している。そこには人生そのものに関わる大きな問題が潜んでおり、そこが乱れてしまえば恐ろしい破滅に至っても当然のことと言える。」これは精神医学者ロビン・スカイナー博士 (Dr. Robin Skynner) の言葉ですが、家族とその必要性をおろそかにすれば問題が起こることを改めて教えてくれます。

世界中で様々な形で家族は機能しています。文化により考えは違い、生活様式によって関係性やそのほかの違いもあります。第二次大戦後、西側社会は大きく変化し、多くの点で家族の状況にも影響がありました。仕事における様々な要因が、社会構造や家庭生活、家族にまで変化を与えました。

普通出生率は減少を続けています。衛生基準の向上によって、社会に占める高齢者の割合は格段に増加しています。それなのに、高齢者はその知恵や経験を尊重されるよりも問題視されています。

かつては社会において結婚が大事な部分を保っていた国々でも、中絶の合法化や避妊法の利用によって、婚外子が増加しています。西洋諸国では婚姻関係にある夫婦よりも同棲関係が多くなっています。英国では半数以上の赤ちゃんが婚外子です。

今も結婚が一般的な国では、離婚率の上昇が見られます。法的に離婚が認められることにより、結婚生活に終止符を打ちやすくなりました。国によって形は違いますが、離婚が増え続ける一方で大勢の子どもたちに影響が

出ています。それに伴って再婚も増え、その結果多くのステップファミリー（血縁でない親子・兄弟関係の家族）が生まれています。

過去50年の移民状況を見ると、異なる人種間の結婚が増加し、異なった家族制度を共にしている人々が増えています。

女性たちの果たす役割にも大きな変化が見られます。ほとんどの子どもたちは両親が共働きの家庭に育ち、家事のやり方に影響を与えました。

新しい技術が導入され、人やモノの移動が活発になり、メディアは爆発的な影響を社会のあらゆる層の関係に及ぼしています。親も子も、コンピューターの中を「さ迷い」、夫婦は別々の職業、別々の車、別々の生活をします。メディア（インターネット、テレビ、新聞、雑誌）は、家族全員に、特に子どもたちに作用し、結果として主に家族の感化よりも外部からの影響が大きくなってしまいます。

組織だった宗教というものはどんどん衰退し、人々の人生観を変えています。聖書の言葉もキリスト教倫理も知らない人が増えています。「新たな道徳観」でごまかしています。

性的なものに対して非伝統的な考えが広く受け入れられています。各自の性の表現に対する権利によって教会の内外で混乱を招いています。

これらの変化は国によって程度に違いがありますが、地球規模で見ると、家庭生活の崩壊の衝撃はかなり大きく及んでいます。

それでも、なお、家族はこの世界で希望の象徴です。社会における再生と養成の基本的な単位です。人生のあらゆる段階で、人間として必要なもの、保護、教育、子育て、看護、介護などを与えてくれる存在が家族なのです。

マルチン・ルーサー・キング博士 (Dr. Martin Luther King) は述べました。「家庭生活はただ単に教育の場ではなく、その究極の特質は、各自の愛の深さを決定づけるということです。家族制度によって、人は他の人を愛するというだけでなく、さらに広く社会的な意味で、あるいは人間同士互いに愛することができるよう決定づけられるのです。社会全体がこの土台の上にあることで、安定し、わかり合い、社会的に平和となるのです。」(続く)

NEWS!!  
各地のニュース!!

## 遠軽小隊

## ●女性の働き 家庭団例会

5月11日(日)、母の日サンデーに家庭団例会をおこないました。母の日を喜び感謝し



つつ、フェルトカーネーションを皆で作りました。(6人)

## YGC (山室軍平カレッジ)

## ●オープンデー

5月17日(土)、「YGCへようこそ!」のテーマで開催され、スタッフを含む17人が参加しました。午前のセッションでは、「士官学校」から「YGC(山室軍平カレッジ)」へと組織のリブランディング(再構築)が進められたことに関する情報提供がなされました。午後は参加者が小グループに分かれ、万国本営の霊的生活成長部(CSLD)が実施しているアンケートに基づいた4つの質問から、神様との個人的な霊的關係についてや、救世軍が霊的に健全に地域社会に関わっていくことについて分かち合う機会が設けられました。

## 救世軍見解表明

### 社会道德に対する救世軍の立場 第17回「自殺防止」(2)

#### 見解表明の背景と状況

(承前)\* 世界保健機構(WHO)の報告によると、毎年、自殺で死亡する人の数は80万人以上で、40秒に一人が亡くなっているとのことです。過去45年の間に、自殺率は、世界的に見て60%増加しているそうです。多くの国々で、自殺者は男性が多いのです(中国のような例外もあります)。どの国においても、自殺は死因のトップ10に入っており、15歳から30歳の年齢層の死因では、トップ3の一つになっているそうです。

\* 精神障害(特に、うつ、薬物乱用、統合失調症、パーソナリティ障害)は自殺の90%以上に関連しています。このような状況に対する効果的な治療が確認されていますが、いつでも手に入れたり、利用できるものではないのです。

\* 自殺をする危険のある人々がいます。以前に自殺をしようとしたことのある人、アルコール、その他の薬物に依存している人、若い男性、高齢者、遺族、先住民族、性的指向アイデンティティの葛藤を感じている人、移民、田舎の地域に住んでいる人、受刑者、身体の病気で衰弱している人など。

\* 自殺を20回以上、試みる人がいます。最初に試みた後、一年以内にまた実行されることが多いのです。

\* 調査結果によると、銃、柵のない橋、大量にため込んだ薬、有毒な家庭用ガス、自動車排ガスなどが、自殺のために用いられるとのことです。

\* メディアは自殺防止のために国民を啓蒙する強力な役割を担うことができますが、報じ方によってはマイナスの影響を与えることもあるのです。自殺の手段を描写することは、科学者たちの言う「自殺の伝染」、自殺の「コピーキャット」(そっくりなもの)をつくることになりかねないからです。自殺に関するメディア報道についてのガイドライン(メディアが「すべきこと」、「してはいけないこと」を示したWHOによるガイドライン)に従うことで、自殺率が低下することが示されています。

\* なんの前兆もなしに自殺が起こるケースはまれです。それゆえに、自傷行為の兆しは、真剣に受け取らなければなりません。付け加えると、自殺をしようとする人々の多くは、アンビバレント(相反する感情や考え方を同時に心に抱いている)であり、ひたすら死を願っているわけではないのです。

#### 救世軍の立場の土台となるもの

救世軍は人の命の尊厳を信じています。人類は神にかたどって創造されました(創世1:27)。例外なく、すべての人が、神にとって価値あるもので、神の創造の中で特別な立ち位置をもっているのです(詩編8:5)。それは、年齢、性別、人種、宗教、健康状態、社会的地位、どん

なことが達成できるかなどには、全く関わりがありません。

救世軍は、自殺した人々への非難に対して遺憾の意を表し、残された家族や友人たちを責めるのは間違いであると考えます。救世軍は、どんなものも神の愛から私たちを引き離すことはできない、と信じていますし(ローマ8:38、39)、神の知恵は完全であると信じています。このことは、自殺で亡くなった人のための、救世軍の葬儀の式文に次のように表されています。「私たちの兄弟/姉妹〇〇さんが地上の生活を終わりました。土は土に、灰は灰に、塵は塵に帰ります。復活を確信し、神の永遠の知恵と憐れみを確信して、私たちはその遺体を葬ります。」

救世軍は、イエスにあって見いだされる、新生の力を経験することによって、希望と癒しと新しい命に導かれると信じ、また、その回復された関係性が自殺予防の要因になると信じています。

#### 実際的な対応

1. 救世軍は世界で最初に自殺予防プログラムを立ち上げた団体です。救世軍の創立者、ウイリアム・ブース大將は、1907年にロンドンの自殺防止事務所と共に、自殺予防の働きを始めました。自殺を考えている人や、自殺した人の遺族に対する、このような働きは、今もおこなわれており、効果をあげています。
2. 救世軍は、自殺の危険に気づくための、個人的、専門的、公共的な働きを支援します。
3. 救世軍は、一つ一つの軍国がそれぞれの文化的な多様性を認めつつ、自殺予防のためにそのスタッフ(医療サービスや社会的サービスをする人々、教師、牧会ケアをする人々など)を教育することを奨励します。
4. 救世軍は、もっと広く社会で用いられる教育的なツール(例えば、自殺予防のための応急処置コースなど)の増進を促し、それらを異なった文化圏での特別なニーズにも応用できるよう奨励します。
5. 危険な状態にある人々が、精神障害に苦しんでいる場合など、専門的ケアを受けることが難しく、これは重大な問題です。弱者を支援することを伝統的におこなってきた救世軍は、精神障害の患者たちが適切な治療を受けられるよう努めます。
6. 救世軍は、自殺に近づく道を減らすための、共同体レベル、国家レベルでおこなわれる働きを支援します。
7. 愛する人が自死した場合の別れは、自然死の場合より複雑で、激しく、長引くものです。救世軍は、自殺に関わる非難などを取り除くために、遺族に対して心を込めたカウンセリング、牧会ケアをします。極度のショック、非難、罪悪感、その他のために、哀悼のプロセスが難しくなった時には、専門的なカウンセリングが必要になるでしょう。
8. 救世軍は、自殺に関する報道について責任あるメディア・ガイドラインの実行を奨励します。
9. 救世軍は、自殺予防のために地域的に、世界的に働く、信頼できる機関があることを知っています。そして、自殺をする危険のある人々を支援する、そのような機関と協力し、連携して働くことを奨励します。

(2009年7月大將によって承認) (続く)

# 万国書記官の交代

万国本営 南太平洋及び東アジア地域万国書記官として奉仕されたウェイン及びロビン・マックスウェル中将夫妻（オーストラリア軍国出身）は、5月31日付で引退し、6月1日付で、ユサク及びウィディアワティ・タンパイ中将夫妻（インドネシア軍国出身）がこの任に就きました。

マックスウェル中将夫妻はオーストラリア東部軍国の士官学校に入校し、1984年1月に救世軍士官に任官されました。小隊、連隊、本営での任命を経て、2013年4月からフィリピン軍国の司令官及び軍国女性部会長に。その後、オーストラリアに戻り、オーストラリアの二つの軍国の統合に伴う働きに任命されました。2019年10月に中將の階級を与えられ、万国本営の南太平洋及び東アジア地域万国書記官に任命されました。マックスウェル中将夫妻の献身と奉仕の生涯に心から感謝を献げ、これからの歩みに多くの喜びと祝福があることを祈ります。

## 救世軍公報

任命（カッコ内は継続任命）  
補婦人寮施設長（兼）副伝道事業部長（兼）人身取引対策室長（兼）軍国C C書記

石川節子少佐

任大尉（復帰）

補西日本連隊本部付、（兼）京都小隊士官補佐

高橋暁子大尉

二〇二五年七月一日付

司令官

ステイブン・モーリス

書記長官部付の任を解く

成演宇軍国特務曹長

二〇二五年五月十八日付

二〇二五年四月二十八日発令

司令官

ステイブン・モーリス

＊成演宇軍国特務曹長は、軍国特務曹長の任を解かれ、五月十九日、韓国へ帰国。



## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

引退証書と感謝の記念品が授与されました。長年にわたる尊い奉仕に感謝いたします。



### ●士官永年勤続章の授与

6月6日（金）、眞鍋精一少佐に、士官永年勤続45年章が司令官ステイブン・モーリス大佐から授与されました。併せて3月末に士官永年勤続章を授与された西村保大佐補（30年）と山谷真少佐（35年）が写真に納まりました。



## 人事・教育部

### ●引退証書授与

5月18日（日）、徳永由美少佐に司令官ステイブン・モーリス大佐から

### ●軍国特務曹長の帰国

成演宇軍国特務曹長は、5月19日（月）、娘さんに付き添われ、韓国に帰国しました。2022年4月7日、コロナ禍のため入国に時間を要する困難な中にも来日し、桐生小隊で熱心に奉仕しました。昨年9月に脳出血で倒れ、リハビリを続けて回復も見られる中ですが、この度、軍国特務曹長の任を解かれ、帰国することになりました。帰国前日の5月18日（日）には、杉並小隊聖別会の席上、司令官より感謝状と記念品が贈られました。これからの歩みのためにお祈りいたします。



### ●誓約式

6月6日（金）、高橋暁子兵士の士官への復帰にあたり誓約式をおこないました。



# 第9回 救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作品

今回は全国から、昨年の倍の四百六十作品もの応募をいただきました。ここに受賞作品を紹介し、講評を掲載いたします。おめでとうございます。

選者・唐澤 南海子氏（現代俳句協会会員、「岳」無鑑査同人、第27回俳壇賞受賞、日本基督教団・信濃町教会員）

## 最優秀賞

はじめましてボクも爺と社会鍋

東京都 吉岡 敏郎

評 少年にとってこの世は不思議に満ちた場所。爺との交わりの中で少しずつ学んでいきます。その一つが社会鍋です。少年は目を丸くして「はじめまして」と鍋を覗きました。

## 優秀賞

社会鍋明日は親父の三回忌

岐阜県 細江 隆一

評 幸せいっぱい家族写真、親父を真ん中にみんな笑顔。社会鍋を覚えてくれた親父は私の人生をより豊かにしてくれました。

看護師の母は八十歳社会鍋

徳島県 澤田 孝利

評 母がよく言っていました。病気というのは体の声です。その声を聴きながら人生を楽しみましょう。

## 社会福祉部長賞

名も知らぬ子らを憂いて社会鍋

埼玉県 山本 永輝

評 作者は、この句の柱となる言葉「憂い」を上手に使っています。名前も知らない、生まれも知らない。結果、わたしたちは何も知らないのです。想像もつかないような世界がくつきり浮かび上がってきました。

## ほのぼの賞

転職後初出勤や社会鍋

埼玉県 中野 弘樹

評 背筋を伸ばし新たな転職先に向かう青年の姿が見えます。

よく噛んでよく食べる子や社会鍋

熊本県 貴田 雄介

評 命をつなぐ食物、食べることは人間のもつ本能です。

社会鍋もつと広がりますように

埼玉県 田中 桜彩

評 大人にない子ども素直なやさしい気持ち。桜彩さん、ありがとう！

## 佳作

四方から愛の手伸びる社会鍋

小田中 準一

車椅子足踏みしめつ社会鍋

関谷 絹子

社会鍋大きく見える小さな手

前田 高広

目に映る白い十字架社会鍋

青星ふみる

社会鍋畳んだ紙幣献じけり

橋村 仁誉

新紙幣時を重ねし社会鍋

尾崎 尚子

給料日帰りはいつも社会鍋

高橋 克己

社会鍋戦争知らぬ子供かな

原田 晋之介

100円の買い物をして社会鍋

山口 馨

繁栄の歪を埋める社会鍋

早雲まり子

主は其に見守りたもう社会鍋

芝崎みちる

## 奨励作品

金なんかと言った父さん社会鍋 鈴木良二）ひとりゐた瓦礫のなかの社会鍋（浦城亮祐） 冬空にまごころありし社会鍋（石原弘樹） 社会鍋笑顔とやさしさ思い込め（野崎精子） 握りしめ願いを託す社会鍋（長南綾音） 雑踏の中の温もり社会鍋（羽住博之） 一心に能登へ届けと社会鍋（星月彩也華） ささやかな献金鍋にそっと入れ（悠々愛々） 不穏な世不安な世こそ社会鍋（早雲直） 母がよく募金していた社会鍋（梶浦珠代） 明日からいいえ今日こそ社会鍋（清水和弘）

7月13日(日)～  
8月31日(日)  
こども伝道週間  
7月、8月 夏期聖書学校、  
キャンプなど(各連隊・小隊)

ユースキャンプ2025  
テーマ：「イエス様と生きる」  
8月17日(日)～20日(水)  
会場：日光オーリーブの里(栃木県日光市)  
主催：本宮青少年部

### (取扱支部)

発行日及び定価

▼発行日  
福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

▼定価  
福音版・一部 四〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号(十二月一日号)

・一部 一〇〇円

振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者ステイブン・モーリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

神田神保町二ノ十七

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本宮

印刷所 株式会社ヒーランドエス

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 リンドン・バッキングラム(万国本宮 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブン・モーリス(救世軍本宮 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>